

経済情勢 (2月の経済指標を中心に)

全国、中国ともに消費者マインドが上昇しているほか、生産や輸出が増加基調にあり、雇用情勢に着実な改善がみられるなど、景気は緩やかに回復している。

(全国)

個人消費	前年の駆け込み需要の反動がみられるものの、消費者マインドに改善がみられるなど底堅く推移している
住宅投資	新設住宅着工戸数は持家、貸家が減少したことなどから、前年を下回った
設備投資	機械受注は製造業が増加したものの、非製造業が減少したことから前年を下回った
公共投資	前年を上回った
輸出	輸出金額は米国向けが増加したことなどから前年を上回った
生産動向	緩やかな増加基調で推移しているものの、前月の反動で電気機械や、はん用・生産用・業務用機械が低下している
雇用情勢	着実に改善している
エネルギー	電力需要、ガス販売量ともに前年を下回った

(中国)

個人消費	前年の駆け込み需要の反動がみられるものの、消費者マインドに改善がみられるなど底堅く推移している
住宅投資	新設住宅着工戸数は持家、分譲住宅が減少したことなどから、前年を下回った
公共投資	前年を上回った
輸出	輸出金額は米国向けが増加したことなどから、前年を上回った
生産動向	緩やかな増加基調で推移しているものの、前月の反動ではん用・生産用・業務用機械や電気機械が低下している
雇用情勢	着実に改善している
エネルギー	電力需要、ガス販売量ともに前年を下回った

1. 景気動向指数(2月)

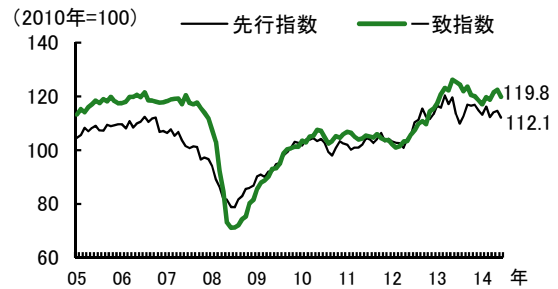
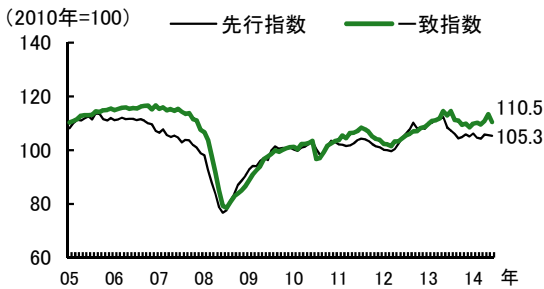
CI一致指数は全国、中国ともに3カ月ぶりに下降している。

(全国)

- ・CI一致指数は110.5(前月差▲2.8ポイント)。3カ月ぶりに下降。
- ・CI先行指数は105.3(同▲0.2ポイント)。2カ月連続で下降。

(中国)

- ・CI一致指数は119.8(前月差▲2.7ポイント)。3カ月ぶりに下降。
- ・CI先行指数は112.1(同▲2.5ポイント)。3カ月ぶりに下降。



指標名	寄与度
CI一致指数(前月差)	▲ 2.8
投資財出荷指数(除輸送機械)	▲ 0.79
鉱工業生産指数	▲ 0.50
鉱工業生産財出荷指数	▲ 0.49
中小企業出荷指数(製造業)	▲ 0.39
大口電力使用量	▲ 0.35
耐久消費財出荷指数	▲ 0.32
商業販売額(卸売業)	▲ 0.05
有効求人倍率(除学卒)	▲ 0.01
所定外労働時間指数(調査産業計)	0.01
商業販売額(小売業)	0.02
営業利益(全産業)	0.06

指標名	寄与度
CI一致指数(前月差)	▲ 2.7
鉱工業生産指数	▲ 1.07
電力需要量	▲ 0.66
最終需要財出荷指数	▲ 0.56
通関輸入額	▲ 0.50
有効求人倍率	▲ 0.32
所定外労働時間(製造業)	0.05
電力利用率	0.11
生産財出荷指数	0.12
全産業業況判断DI	0.29

指標名	寄与度
CI先行指数(前月差)	▲ 0.2
新規求人数(除学卒)	▲ 0.62
最終需要財在庫率指数(逆)	▲ 0.53
鉱工業生産財在庫率指数(逆)	▲ 0.52
中小企業売上げ見通しDI	▲ 0.02
長短金利差	0.11
日経商品指数(42種総合)	0.13
新設住宅着工床面積	0.24
東証株価指数	0.27
消費者態度指数	0.58
実質機械受注(船舶・電力を除く民需)	
投資環境指数(製造業)	

指標名	寄与度
CI先行指数(前月差)	▲ 2.5
新規求人倍率	▲ 1.86
鉱工業製品在庫率指数(逆)	▲ 1.54
生産財生産指数	▲ 0.59
銀行貸出残高(前年比)	▲ 0.38
新設住宅着工戸数	▲ 0.16
中小企業業況判断DI次期見通し	0.00
消費者態度指数	0.37
実質百貨店販売額(前年比)	0.71
建築物着工床面積	0.72

- 注: 1. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するために作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3本の指数がある。
2. 景気動向指数(CI)は景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としている。
3. 全国と中国地域の景気動向指数は、採用している経済指標が異なるため、水準や前月差などを一概に比較することは適切ではない。
4. 中国地域の景気動向指数は、2014年1月値公表時から新景気動向指数を適用(エネルギー地域経済レポートNo.477(2014.4)の解説参照)

資料: 全国は内閣府「景気動向指数(速報)」, 中国は当研究所で作成

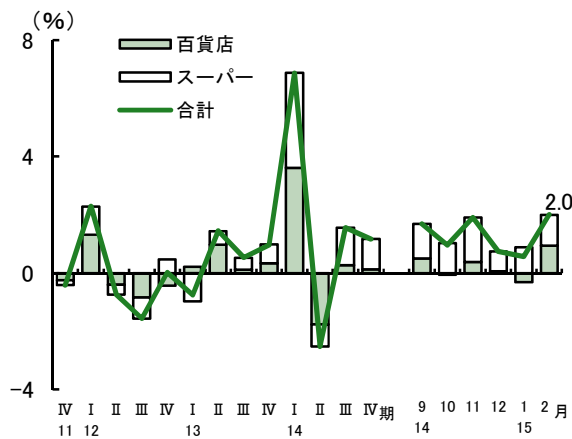
2. 個人消費 (2月)

個人消費は全国、中国ともに前年の駆け込み需要の反動がみられるものの、消費者マインドに改善がみられるなど底堅く推移している。

● 大型小売店販売額 [対前年伸び率]

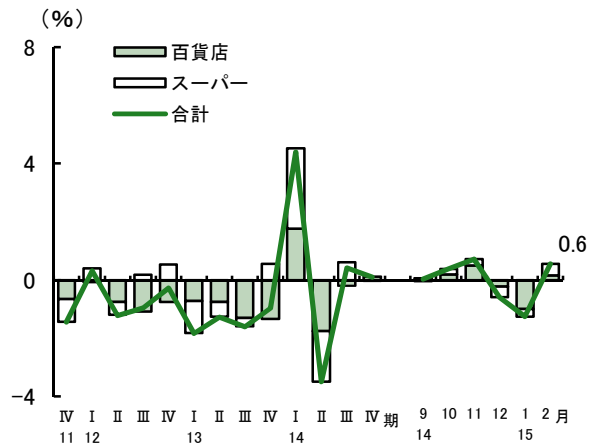
(全国)

大型小売店販売額は、スーパー、百貨店ともに前年比プラスとなったことから8カ月連続で前年比プラス(前年同月比+2.0%)。



(中国)

大型小売店販売額は、相場高により飲食料品が前年比プラスとなったことなどから、3カ月ぶりに前年比プラス(前年同月比+0.6%)。

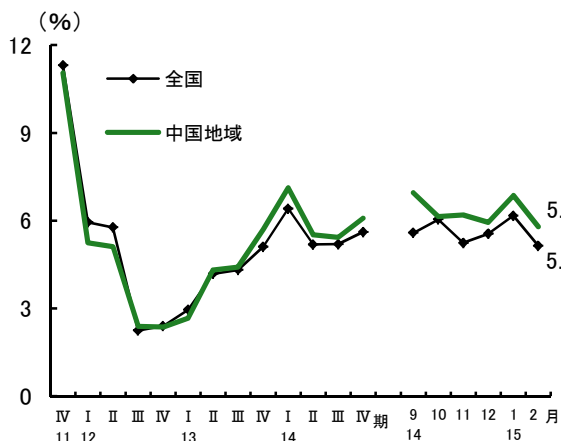


注: 1. 百貨店、スーパーは、大型小売店販売額(百貨店、スーパー販売額の合計)の対前年伸び率に対する業態別寄与度 2. 全店舗ベース
3. 最新月は速報値
資料: 経済産業省「商業動態統計月報」、中国経済産業局「中国地域大型小売店販売動向」

● コンビニ販売額 [対前年伸び率]

(全国) 24カ月連続で前年比プラス(前年同月比+5.1%)。

(中国) 24カ月連続で前年比プラス(同+5.8%)。

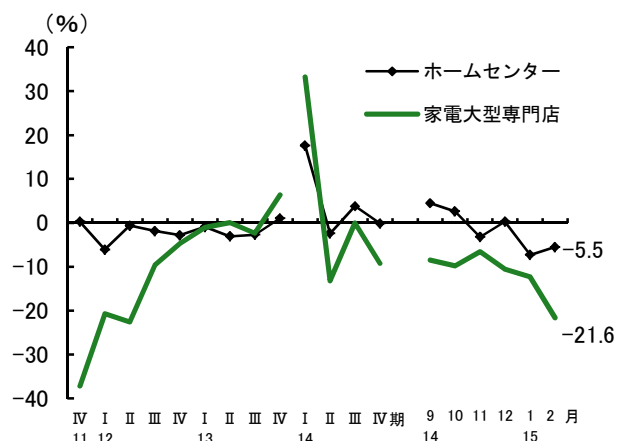


● ホームセンター・家電大型専門店販売額 [対前年伸び率]

(中国)

・ホームセンター販売額は2カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲5.5%)。

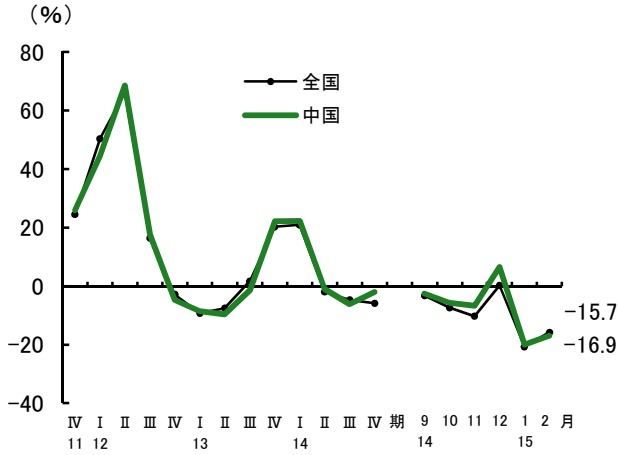
・家電大型専門店販売額は、11カ月連続で前年比マイナス(同▲21.6%)。前年の駆け込み需要の反動。



注: 1. 全店舗ベース 2. 最新月は速報値 3. ホームセンター・家電大型専門店販売額は、2014年1月より調査対象等が変更されたため、それ以前の数値とは不連続が生じている。
資料: 経済産業省「商業動態統計月報」、中国経済産業局「中国地域大型小売店販売動向」「中国地域専門量販店販売動向」

● 新車登録・届出台数(乗用車) [対前年伸び率]

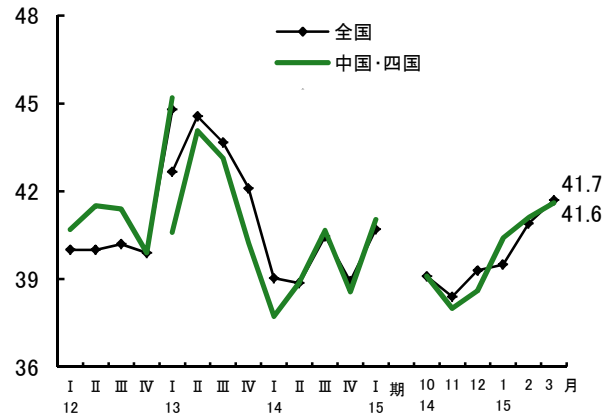
(全国) 新車登録・届出台数(乗用車)は、前年実績が高水準だったことから、2カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲15.7%)。
 (中国) 全国と同様に2カ月連続で前年比マイナス(同▲16.9%)。



資料：中国運輸局「新車登録・届出状況」，(一社)全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

● 消費者態度指数(3月)

(全国) 消費者態度指数は、41.7。4カ月連続で前月比プラス(前月差+0.8ポイント)。「雇用環境」「耐久消費財の買い時判断」など4指標すべてが改善した。
 (中国) 消費者態度指数は41.6(同+0.5ポイント)。



注：1. 消費者態度指数は一般世帯の数値 2. 全国は季節調整値，中国・四国は原数値 3. 四半期は月次の平均値 4. 2013年4月より調査方法等が変更されたため、それ以前の数値と不連続が生じている(新調査における2013年I期は参考値)。

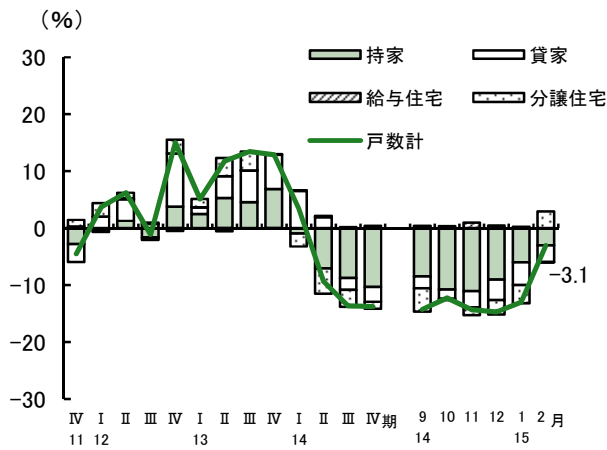
資料：内閣府「消費動向調査結果」

3. 住宅投資(2月)

(全国) 新設住宅着工戸数は、持家、貸家が減少したことなどから前年を下回った。
 (中国) 新設住宅着工戸数は、持家、分譲住宅が減少したことなどから前年を下回った。

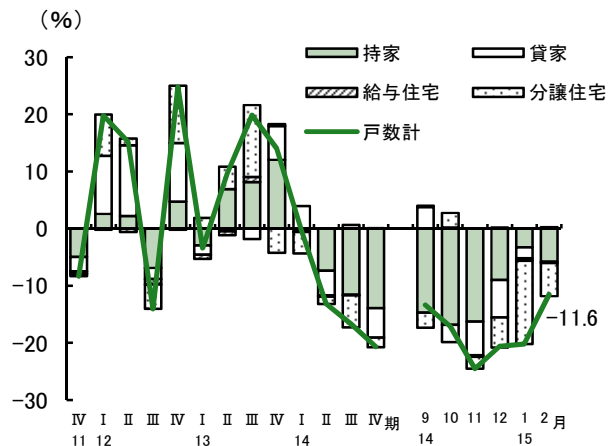
● 新設住宅着工戸数 [対前年伸び率]

(全国) 新設住宅着工戸数は分譲住宅が増加したものの、持家、貸家が減少したことなどから、12カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲3.1%)。



注：持家、貸家、給与住宅、分譲住宅は、新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度
 資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」

(中国) 新設住宅着工戸数は貸家が増加したものの、持家、分譲住宅が減少したことから、10カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲11.6%)。



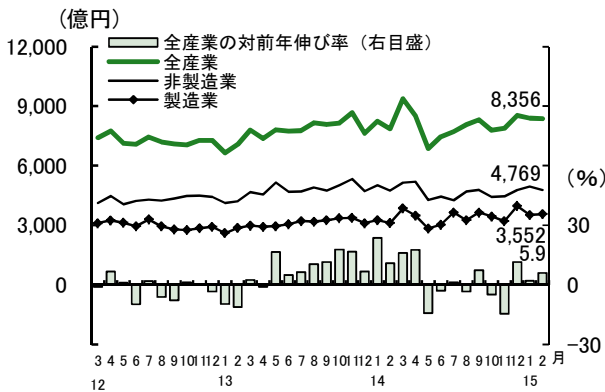
4. 設備投資・公共投資（2月）

機械受注は製造業が増加したものの、非製造業が減少したことから前月を下回った。
公共投資は全国、中国ともに前年を上回った。

● 機械受注額

(全国)

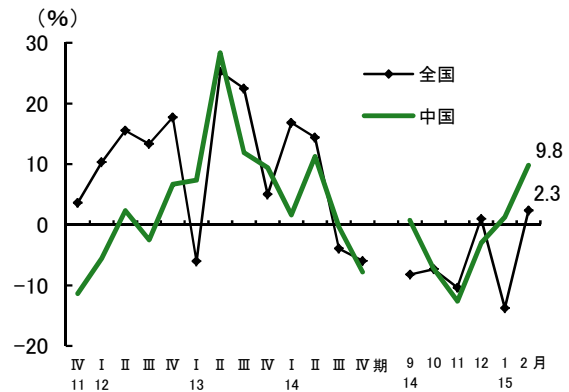
- ・ 製造業は食品製造業などが増加したものの、非製造業が卸売業・小売業などが減少したことから全産業では8,356億円と前月比マイナス。
- ・ 全産業の前年同月比(+5.9%)は3カ月連続でプラス。



注：1. 機械受注額は民需の合計であり、全産業、非製造業とも船舶・電力を除く数値 2. 機械受注額は季節調整済の値。個別に季節調整を行っているため、非製造業と製造業の合計は、全産業の値と一致しない 3. 対前年伸び率は原指数による
資料：内閣府「機械受注統計調査報告」、北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

● 公共工事請負額 [対前年伸び率]

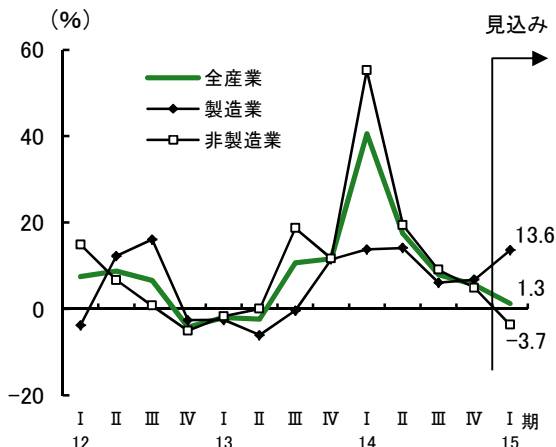
- (全国) 国、市区町村からの発注が増加したことから2カ月ぶりに前年比プラス（前年同月比+2.3%）。
- (中国) 国、市町村からの発注が増加したことから、2カ月連続で前年比プラス（同+9.8%）。



● 法人企業景気予測調査

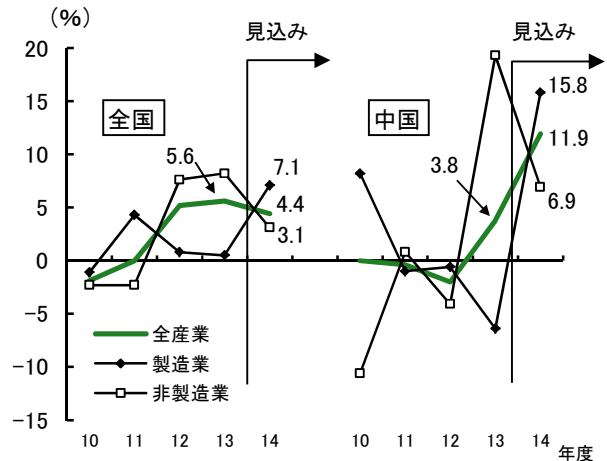
(全国)

- ・ 1-3月期の設備投資額は、7四半期連続で前年比プラスとなる見込み（前年同期比+1.3%）。
- ・ 製造業（同+13.6%）は、前年を上回る見込み。非製造業（同▲3.7%）は、前年を下回る見込み。



● 企業短期経済観測調査

- (全国) 14年度の設備投資は3年連続で前年度を上回る見込み（前年度比+4.4%）。12月調査（同+3.6%）から上方修正。
- (中国) 14年度の設備投資は2年連続で前年度を上回る見込み（同+11.9%）。12月調査（同+16.6%）から下方修正。



注：1. 法人企業景気予測調査、企業短期経済観測調査（以下、短観）は四半期ごとに公表されている。
2. 短観（2015年3月調査）では調査対象企業の見直しを実施されたため、12月調査結果は、新たに集計対象となる企業への予備調査結果を考慮し再集計した値。

資料：内閣府・財務省「法人企業景気予測調査」（平成27年1-3月期調査）
日本銀行広島支店「企業短期経済観測調査結果の概要」（2015年3月調査）

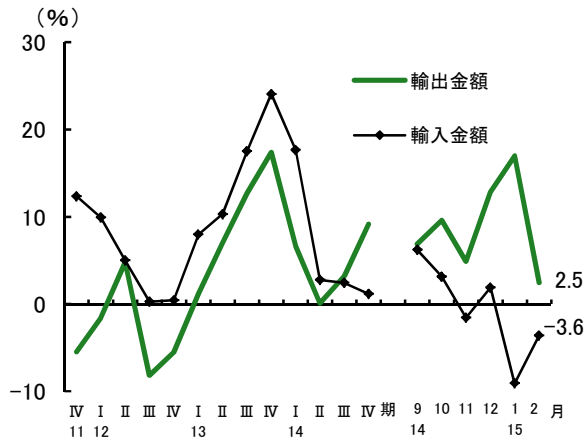
5. 輸出・輸入(2月)

輸出金額は全国、中国ともに米国向けが増加したことなどから、前年を上回った。
 輸入金額は全国、中国ともに原油が減少したことなどから、前年を下回った。

● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

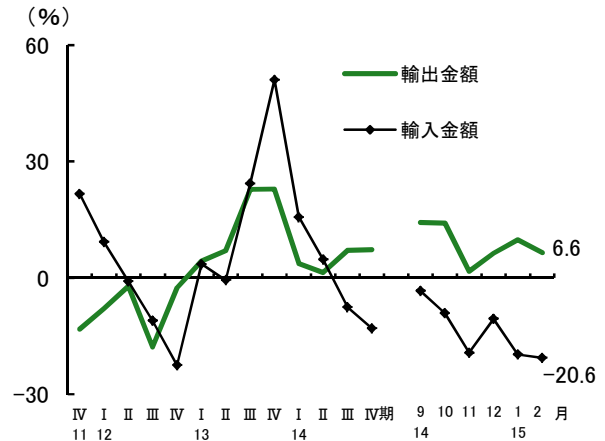
(全国)

- 輸出金額は米国向けが増加したことなどから、6カ月連続で前年比プラス(前年同月比+2.5%)。
- 輸入金額は原油が減少したことなどから2カ月連続で前年比マイナス(同▲3.6%)。



(中国)

- 輸出金額は米国向けが増加したことなどから9カ月連続で前年比プラス(前年同月比+6.6%)。
- 輸入金額は原油が減少したことなどから8カ月連続で前年比マイナス(同▲20.6%)。

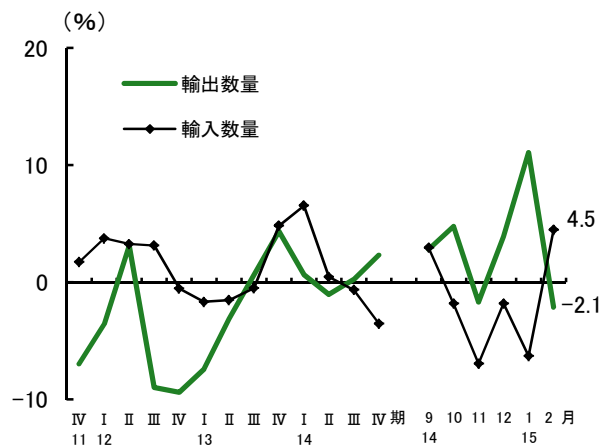


注: 1. 輸出金額, 輸入金額は円ベース 2. 輸出確報; 輸入速報(9桁)
 資料: 財務省「貿易統計」, 神戸税関「中国圏・各県貿易統計」

● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

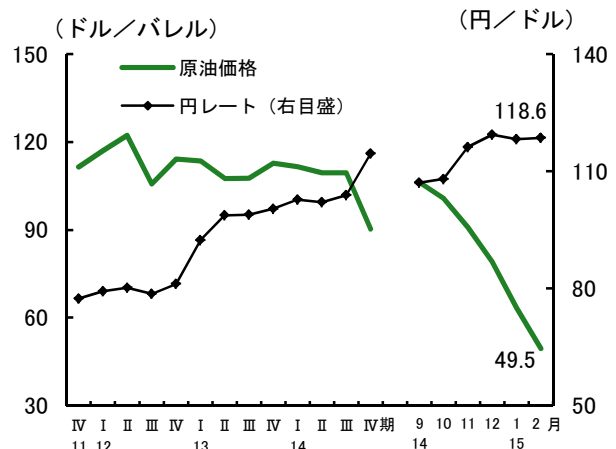
(全国)

- 輸出数量は前年比マイナス(前年同月比▲2.1%)。
- 輸入数量は前年比プラス(同+4.5%)。



● 原油価格・円レート

- 原油価格は49.5ドル/バレルと下落している。
- 円レートは118.6円/ドルと円安の進展が一服している。



注: 1. 輸出数量, 輸入数量とも2010年=100とした指数 2. 輸出確報; 輸入速報(9桁) 3. 原油価格は全日本通関CIF価格(出所: 財務省) 4. 円レートは東京外国為替市場の銀行間中心レートの期中平均値
 資料: 財務省「貿易統計」

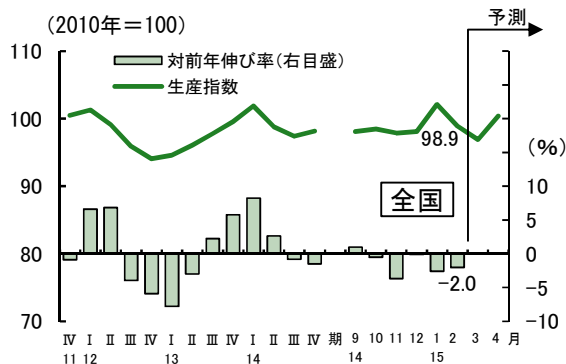
6. 生産動向 (2月)

生産は全国、中国ともに緩やかな増加基調で推移しているものの、前月の反動で、はん用・生産用・業務用機械や電気機械が低下している。

● 生産指数 (総合)

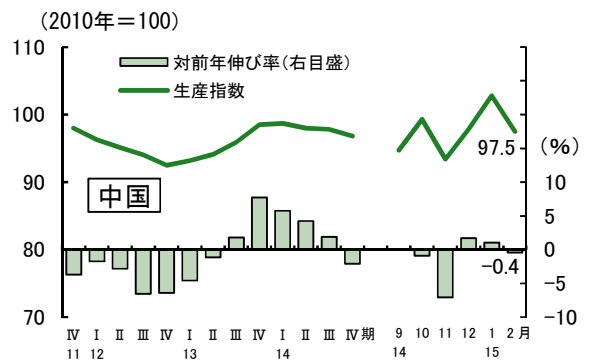
(全国)

- 生産指数 (季節調整済) は、電気機械や、はん用・生産用・業務用機械が低下したことなどから、98.9 (前月比▲3.1%) と3カ月ぶりに前月比マイナス。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比▲2.0%と5カ月連続で前年を下回った。

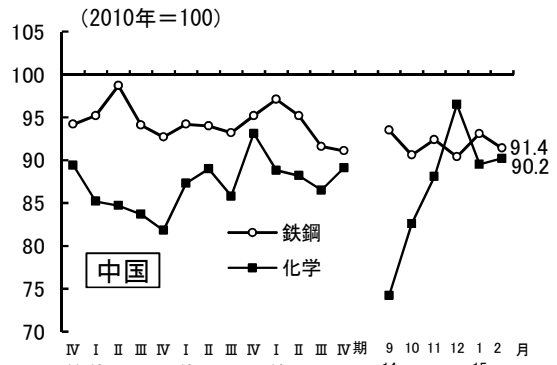
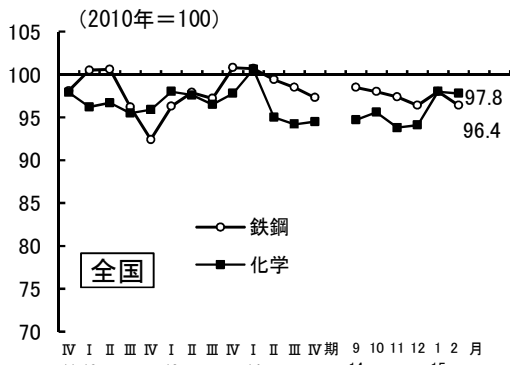


(中国)

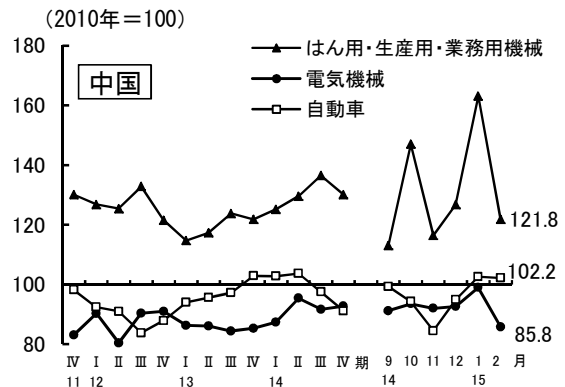
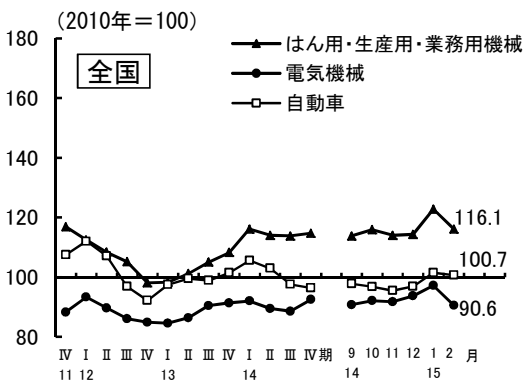
- 生産指数 (季節調整済) は、はん用・生産用・業務用機械や電気機械が低下したことなどから、97.5 (前月比▲5.2%) と3カ月ぶりに前月比マイナス。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比▲0.4%と3カ月ぶりに前年を下回った。



● 生産指数 (素材)



● 生産指数 (機械)



注：1. 生産指数は季節調整済指数 2. 生産指数の対前年伸び率は原指数による 3. 予測値は製造業の値を基に算出 4. 中国の最新月は速報値
5. 「電気機械」は1995年基準の業種分類を適用(2010年基準における電気機械工業、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業の合計)
6. 「自動車」は全国では「特掲：乗用車・バス・トラック」、中国では「自動車工業(乗用車・トラック・主要部品)」

資料：経済産業省「鉱工業(生産・出荷・在庫)指数確報」、中国経済産業局「中国地域鉱工業生産動向」

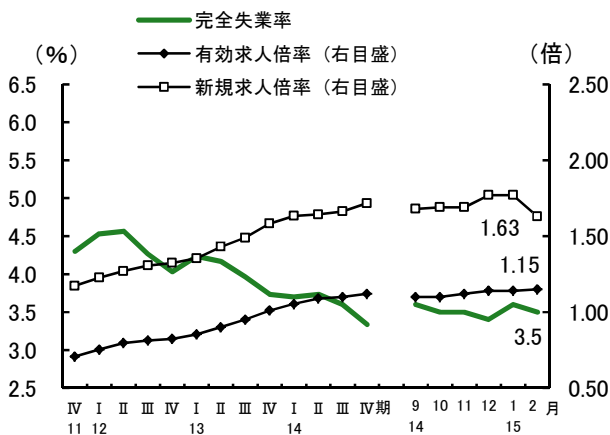
7. 雇用情勢(2月)

雇用情勢は全国・中国とも着実に改善している。

● 完全失業率, 有効求人倍率, 新規求人倍率

(全国)

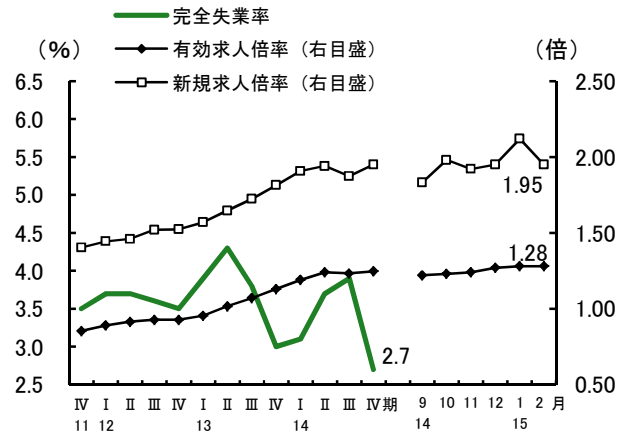
- 完全失業率は3.5%と前月に比べ0.1ポイント改善。
- 有効求人倍率は1.15倍と前月から0.01ポイント上昇。
- 新規求人倍率は1.63倍と前月から0.14ポイント低下。



注: 完全失業率の月次, 有効求人倍率, 新規求人倍率は季節調整値
資料: 総務省「労働力調査報告」, 厚生労働省「職業安定業務統計」

(中国)

- 有効求人倍率は1.28倍と前月と同水準。
- 新規求人倍率は1.95倍と前月に比べて0.17ポイント低下。



完全失業率の四半期は原数値

8. エネルギー(2月)

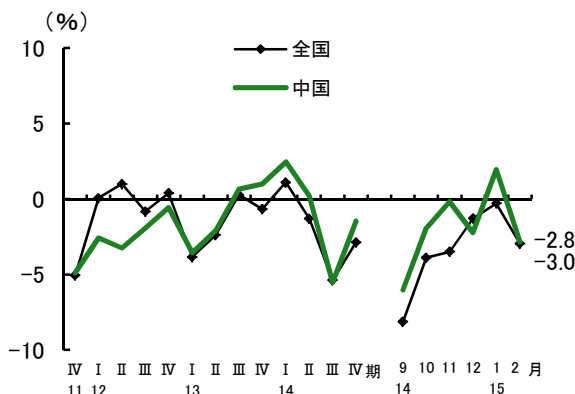
電力需要は全国, 中国ともに前年を下回った。

ガス販売量は全国, 中国ともに前年を下回った。

● 電力需要 [対前年伸び率]

(全国) 電力需要は10カ月連続で前年を下回った(前年同月比▲3.0%)。

(中国) 電力需要は2カ月ぶりに前年を下回った(同▲2.8%)。



注: 電力需要の全国は10電力会社の合計値

資料: 電気事業連合会「電力需要実績(確報)」, (一社)日本ガス協会「都市ガス販売量速報」

● ガス販売量 [対前年伸び率]

(全国) ガス販売量は, 9カ月ぶりに前年を下回った(前年同月比▲0.4%)。

(中国) ガス販売量は3カ月連続で前年を下回った(同▲5.4%)。

